

野生動物への対応について

気仙沼市立大谷中学校

クマ、イノシシ、サル等の野生動物と遭遇した場合や目撃した場合は、あわてずに以下のように対応して下さい。

クマ

◎ クマの特徴

本州で目撃されるクマはツキノワグマです。基本的に人を避ける動物ですが、突発的に出会うと防衛的な攻撃を招き、危険な場合があります。季節や年によって食べ物が変化します。春は山菜などの草本類を主食とし、若いクマが母クマから離れて大きく移動するので、若いクマの出没が増加します。夏は草本類、果実類、昆虫類を主食とし、オスがメスを求めて行動圏を広げます。普段クマが出没しない地域でも出没することがあります。秋は冬眠に備えて食欲が増す時期です。堅果類、果実類を主食とし多くのエサを求めて行動が活発になります。

クマは学習能力が高く、エサ（人間の食べ物）の味を覚えると執着します。木登りがうまく、足の速い動物です。

◎ クマと出会わないために

- ・登下校時はカバンに鈴など音の出るものを携帯するとよい。休日はラジオなどで音を出すのもよい。
- ・見通しの悪い場所や沢沿いなどの音が聞き取りにくい場所では、声を出したり手を叩いたりして存在を知らせる。
- ・クマの新しい痕跡（足跡、食痕、爪痕、糞など）があった際は、周囲に十分に気をつける。

☆ クマと出会ってしまったら

○距離が離れていた場合（クマがこちらに気づいていない）

- ☞ ゆっくりと、静かに立ち去る。この時、一頭か、子連れかを確認する。子連れの場合は危険性が高くなる。

○比較的距離が近い場合（50m 程度）

- ☞ 両腕をふり、こちらの存在をクマに知らせ、クマと目を合わせたまま静かに後退する。万が一の突進に備えてクマとの間に障害物がくるようにできるとよい。

※急な動作はクマを刺激するので危険

※しゃがむ、拾うなど、身をかがめる動作はクマの攻撃を誘発する恐れがあるので注意

○距離が近い場合（20m 程度）

- ☞ クマがパニックになり突発的な行動をする可能性があるため、刺激しないことが大切。走ったり大声を出したりせず、クマから目を離さずにゆっくりと後退する。万が一の突進に備えてクマとの間に障害物がくるようにする。

○クマが突進してきたら

- ☞ 威嚇の場合は途中で止まり後退することが多い。落ち着いてクマとの間に障害物がくるようにする。

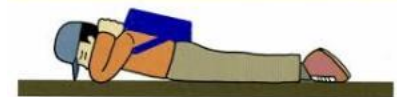
- ☞ 攻撃してきた場合は、クマスプレーがあれば目や鼻に向けて噴射する。クマスプレーがない場合は、防御姿勢を取る →

× やってはいけないこと

- ☞ 背中を向けて逃げない！クマは逃げるものを追う習性があります。

- ☞ 反撃しない。一般の人が戦って勝てる相手ではない。中途半端に反撃すると、かえって逆上させる危険がある。

★ 攻撃が避けられない時は、
地面にうつ伏せになり、頭と首を守る。



イノシシ

◎ イノシシの特徴

イノシシは日本全国に生息している野生動物で、年々数が増えています。本来は非常におとなしく臆病な動物ですが、興奮させてしまうと時速 45km 以上の速さで突進し、鋭い牙を武器に襲ってきます。秋は発情期で気が立っていることが多いので、特に注意が必要です。

☆ イノシシと出会ってしまったら

- 背中を向けない
 - ☞イノシシと目を合わせたままゆっくり後退する。
- イノシシの子供（ウリ坊）を見かけたら、すぐにその場を立ち去る。
 - ☞近くに親がいる。
- 興奮しているイノシシに出会ったときは、木に登るか、物陰に隠れてイノシシをやり過ごす。
- ×やってはいけないこと
 - ☞背中を向けて逃げない。大声を上げたり、走ったりしない。

ニホンザル

◎ ニホンザルの特徴

ニホンザルは、九州地方から東北地方まで広く生息している、日本の固有種です。秋の繁殖期にはオスが群れを離れて移動する習性があるため、この時期は広い範囲で出没するケースが多くあります。

☆ サルと出会ってしまったら

- 近づきすぎない
- 目を合わせない
- 荷物を手放す
 - ☞荷物を持っていると思わせておそってくる危険がある。荷物を手放し、見て見ぬふりをしながら、静かにそっとサルから離れる。
- 走って逃げたり、大声で騒いだりしない
- ×やってはいけないこと
 - ☞エサをあげたり、カメラを向けたりしない。サルを挑発することになる。

ニホンカモシカ

◎ ニホンカモシカの特徴

ニホンカモシカは特別天然記念物です。低木の葉、芽、小枝、花、実、それにササや草木を食べます。主に早朝と夕方に採餌し、座り込んで休息しながら反芻していることが多い（衰弱していると間違えやすい）。人が山の中で仕事をしていると岩角など見晴らしのよい場所に何時間も立ち、じっと見ていることがあります（動けなくなっているわけではない）。大谷学区でも目撃されますが、カモシカは人を襲わない動物で、帰巢本能もあります。山（巣）に帰る道筋がわかれば帰って行くので、目撃したときはしばらく様子を見守るのが原則です。

その他

☆食べ物やゴミを屋外に出しておかない

野生動物は食べ物やゴミのにおいに誘引されて近づくこともあります。カラスによる被害防止の上でも、食べ物やゴミを屋外に出しておかないようにしましょう。一度、食べ物の味や場所を知ると何度も近づいてくる場合があります。

☆異常を見つけた場合は警察等に連絡を

野生動物の目撃や、足跡、糞、樹木等への爪痕などを見つけた場合は、最寄りの警察署に連絡をして下さい。【大谷駐在所 44-2104】